

第4次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会（第1回）会議要録

- 1 日 時 平成30年7月24日（火）18時30分から20時30分まで
- 2 場 所 武蔵野市役所802会議室
- 3 出席委員 宇田川、大屋、熊谷、熊田、合原、酒井、田中、千種、中西、花俣、深田、本多、森安、矢島、蓬田、綿貫（敬称略）
- 4 欠席委員 なし
- 5 事務局 小美濃会長、渡部常務理事、森事務局長、ほか事務局職員
- 6 傍聴者 なし
- 7 議 事

（1）開 会

（2）委嘱状の交付

（3）会長挨拶

【会 長】 大変暑い中、またご多用の中、本日、ご出席賜りまして誠にありがとうございます。第4次武蔵野市民地域福祉活動計画は、平成30年3月に策定された武蔵野市第3期健康福祉総合計画・第5期地域福祉計画に基づき、市民を主体とした福祉活動の一層の推進のため、策定を進めていかなければならないと思います。

今年度末までの期間となりますが、ご尽力を賜りたく、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

（4）委員紹介

（5）事務局紹介

（6）正副委員長を選出

第4次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会設置要綱第5条に基づき、委員長に千種委員が選出された。また、副委員長に熊田委員が指名された。

（7）議 事

議事に入る前に、第4次武蔵野市民地域福祉活動計画策定委員会傍聴基準に基づき、委員会の傍聴について諮り、承認された。また、会議要録について、武蔵野市民社会福祉協議会ホームページへの公開が承認された。

- ① 「我が事」・丸ごと」地域共生社会実現本部 「地域力強化検討会」最終とりまとめについて

資料6～10ページに基づき事務局より説明を行った。特に委員からの質問はなかった。

②武蔵野市地域福祉計画について

別冊資料 武蔵野市第3期健康福祉総合計画・第5期地域福祉計画及び概要版に基づき、森安委員（健康福祉部長）より説明を行った。特に委員からの質問はなかった。

③第4次武蔵野市民地域福祉活動計画策定にあたって

別紙資料 第4次武蔵野市民地域福祉活動計画策定にあたってに基づき、熊田副委員長より説明を行った。特に委員からの質問はなかった。

④今後の進め方について

資料11～12ページに基づき、事務局より説明を行った。

【委員長】 委員が16名ということで、様々な意見をいただきたいと思います。全員で話しても意見を出しづらいので、数名の委員でグループ化して、話をするような場を設けても良いのではないのでしょうか。何か全体的なことでも、意見がある委員はいますか。

【委員】 私も社会人の学生を教えていたり社会福祉の現場にいろいろかかわっていてよく思うことがあるんですが、社会福祉の領域の困り事とか支援されるべき状況、それから支援のかかわりというのは本人の生活とか地域の中におけるいろいろな潜在的な問題になってくるんですけれども、やっぱり社会福祉的な生活課題は当事者にならないとリアルにならないことがあると思います。

障害のある子どもさんを育てている親御さんは、子どもが生まれたときからずっと福祉にかかわってきているんですけれども、保育の問題はいざ職場に復帰しようとするすると直面しますし、高齢者の介護の問題ですと、やっぱり自分の親とか祖父母が認知症になったとか、半身麻痺になったという時点で初めて当事者性を持つてくるので、今回、国の施策等を詳しく教えていただいて勉強になったんですけれども、「我が事」と言ったときにどこまで「我が事」になれるのかというのは難しい課題だと思いました。

地域で暮らすということ、それ自体は「我が事」化しやすいとは思いますが、国の想定しているいろいろなことで市民が市民を支援する、一部のすごく情熱がある人とか身の回りに目配せできる市民の方々は、自然にできると思うんですけれども、便利な世の中ですし、自分のことだけ考えて

いればある程度生活できてしまうときに、市民の方々の生活、「我が事」化させるとか地域福祉活動に引き込んでいくというのは、やはりいろいろな仕掛けと、実践が大事だと思います。

いろいろな課題、実際の地域を見ると、世代間のバトンタッチとか、そういうあたりも課題があると思うので、引き続き頑張っていきたいと思います。

【委員】 私自身も障害があるわけではないので、障害者と相対して初めて、家族中の関係性や、世帯による多様さ、厳しい状況がわかることがあり、「我が事」と言われてもというように私も思いました。

あと、3つあって、今ある既存のシステムを「我が事・丸ごと」をベースにして見直すという話でしたが、この策定スケジュールで見直す時間があるのかと。既にあるものを見直すというよりは、いいところをもっと引き出す形のほうがいいのかなというのの一つ。

2つ目は、武蔵野市は福祉の先進ということについて。高齢者福祉は確かに説明にあったとおり、もう長らく先を進んできたんですけれども、最近はどうでもない状況かなというのが、策定委員として実感しているところです。

ただ、そうは言っても、介護保険のケアマネジャー研修等、人材育成についてのスキルはすごくあると思うので、活動計画の中でもぜひアドバイスをいただきたいと思います。

最後に、人材育成とかネットワーク、相談支援システムをつくりましょうというお話で、そうすると、そのお金はどこからどうやって出すのという話になってくると思うんです。

アンケートでもあったように収入の多い人たちは満足度が高いけれども、低所得の人は低いということを考えると、やっぱり地価の高いこの武蔵野市で生活していくことの大変さは、若い方は非常に感じているところかなと思うので、お金のかからない方法もしくはお金を生み出していくような何かを活動計画の中で考えながら、携わっていききたいなと改めて感じました。

【委員長】 先ほど、共同募金の話もありましたけれども、やっぱり資金集めも大変なことで、いろんな活動をしていくために先立つものが要るからということになってくると思います。これについても、今後の計画の中で話し合うことができればと思います。

また、やっぱり人材、次の担い手も課題になってくるし、それから、先ほ

ど見直しというよりも良いところをどういうふうに伸ばすのかという話もありました。事業を見ていくと、正と負の部分が出てくるんです。ただ、負の部分ではなくて、正の部分を中心にみていくのもやり方の一つだと思います。

企業等では、デメリットになっている事業を見直すことの方が、新しい事業を1つ起こすよりも大事だという考え方がよくあるんですが、新しい事業をどう引き出していくのかというのも、大事な要素だと思います。

また、商店会連合会からも委員に就任いただいていますし、商店会のかかわり等で、財源に関する取り組みについても、何かできるといいなと思っています。今回、様々な分野から委員としてご参加いただいていますので、本日のように様々な意見を吸い上げながら進めていきたいと思っています。副委員長はいかがですか。

【副委員長】 私が説明した最後の話は、たたき台ですので、必ずしもこうしようということではないということだけは、認識していただければと思います。

確かに既存システムのリデザインというように書きましたけれども、計画策定のスケジュールを考えると厳しい部分があります。また、見直したときに、どういう見直し方をするのもポイントになると思いますし、また、委員からも話がありましたけれども、確かに「我が事」と言うのは口では簡単だけれども、実際には難しいということは、これも事実だと思うんです。

ただ、地域で取り組みを進めていくためには、自分のことだと思えるような環境をつくるのが原点になりますので、それを具体的にどうしていくのかというのは、なかなか解がないとは思いますが、みんなで考えていくということが大事だろうと。計画はできたものも大事ですが、プロセスが重要だと思いますので、みんなで話し合うということを進めていければいいのではないかと思います。

⑤その他

事務局より、①事務局による委員会配布資料の預かりについて、②委員報酬振込先口座指定書およびマイナンバーの提出について、③委員会の様子の写真の広報周知媒体（広報紙、SNS等）での使用について、について説明し、承認を得た。

【委員長】 ほかになければ、これで第1回の策定委員会を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。